

公益財団法人8020推進財団
令和4年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録

1. 事業名：歯薬連携強化によるかかりつけ歯科医機能の充実を目的とした
連携ネットワーク推進のためのパイロット事業（3）

2. 申請者名：公益社団法人香川県歯科医師会 会長 豊嶋 健治

3. 実施組織：公益社団法人香川県歯科医師会
国立大学法人徳島大学歯学部予防歯学分野
まんのう町国民健康保険造田歯科診療所

4. 事業の概要：

超高齢社会に突入している我が国では、これからの医療と介護は多職種連携体制による地域包括ケアシステムの中で住民ニーズに合致した効率的な社会保障サービスとして提供されることが期待されている。我々は2018～2020年の前事業：「薬局、医科診療所および町保健センターを起点とする地域住民のための多職種連携による歯科口腔保健推進システム構築のためのパイロット事業」を実施した結果、薬局との間の「歯薬連携」の推進に、特に大きな可能性を見出した。そこで今後の発展のための狙いとして、診断名として最近保険収載された「口腔機能低下症」と、漢方薬に着目し、歯薬双方向から地域の住民患者の問題の改善に向けたアプローチを試み、連携ネットワークの機能強化を目的とした本事業を実施する。

5. 事業の内容：

- ① 善通寺市および仲多度郡地域をモデル地区として設定し、地区の歯科医師会員と薬剤師会員を対象に、口腔機能低下症と漢方薬の知識に関する意見交換会をワークショップ形式で実施した。
- ② 香川県下全域の歯科医師と薬剤師を対象に歯科領域における漢方薬の活用に関する知識の向上を目指した講演会を開催し、事後アンケートにて口腔乾燥症に対する漢方薬使用と歯薬連携の可能性について会員の意識調査を行った。

6. 実施後の評価（今後の課題）：

- ① 2020年初頭より全国に広がったコロナ禍により、今年度も当初予定した事業の大幅な縮小や事業変更を余儀なくされた。2022年秋以降の感染者数減少により、モデル地区での意見交換会や会場開催とWEB受講を併用したハイブリッド形式での講演会の開催はかろうじて可能であったが、当初予定していた薬局に設置した口腔水分計（商品名：ムーカス）をツールとした、口腔乾燥を主訴とする患者の診療情報のやり取りや具体的な歯薬連携にまで至らなかった点が課題として残った。
- ② またアンケート結果では、今後の日常臨床での漢方薬の利用について、約90%の受講者が進めたいとし、また歯薬連携についても約94%の受講者が具体的な進展を望んでいる結果が示された。
- ③ 上記の結果を踏まえ、今後かかりつけ歯科医院とかかりつけ薬局との連携による、地域住民の健康情報の効率的な共有による住民サービスの向上を目的とした歯薬連携の深化を目指して、新たな事業展開を模索していく事が必要と考える。